

2017 年度「研究者の横顔」 山口 知也先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私が大学院生であったときに、父親が肺がんを患いました。当時生命科学を学んでいた私は、がんとは何か、がんはどうやってできるのか、がんは克服できるのか、など素朴な疑問を抱き、肺がんの基礎研究の道に進みました。

2. 助成研究の内容紹介

肺腺がんは、がん死亡原因第一位の過半を占め、禁煙対策が進んだ先進諸国でも増加傾向にあります。またイレッサなどの EGFR 阻害剤は変異陽性症例において一旦著効を示しますが、1 年以内にほぼ全例において、薬剤耐性が獲得されてしまいます。このことは、臨床的に大きな問題となっており、耐性の克服は喫緊の課題と言えます。

そこで本研究では、肺腺がんの細胞の中で起きている耐性獲得の分子メカニズムを明らかにし、得られた知見に基づく臨床的困難を打破できる治療薬の開発に繋げていきたいと考えております。

3. 2 の将来に繋がる結果予想

本研究によって、これまで多くの謎に包まれてきた肺腺がん細胞での生存・増殖のシグナル伝達機構が明らかになるとともに、分子標的薬に対する薬剤耐性のメカニズムの解明に繋がります。またこれらのことが判明すれば、これまでいない画期的な治療薬の開発に繋がることが期待されます。

4. 全国の RFLJ 関係者に一言

このたびは、2017 年度リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)の「プロジェクト未来」の研究助成に採択していただき、心より御礼申し上げます。このことを励みに、一日でも早く、肺腺がんの根本的な治療に結びつく、研究成果が得られるよう、日々努力いたします。

あらためまして、このような研究の機会を与えてくださいました、RFL 関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後の RFL の活動に積極的に参加させていただきたく存じます。

今後とも何卒、よろしくお願い申し上げます。